

- 出席者 (順不同、敬称略)
- | | |
|------------------------------|-------|
| 株式会社吉井商店 専務取締役 | 吉井 健司 |
| 株式会社デジタル 執行役員生産本部長 | 金澤 研一 |
| 五鈴精工硝子株式会社 常務取締役 | 栄西 俊彦 |
| 株式会社向井珍味堂 代表取締役社長 | 中尾 敏彦 |
| ATAC運営委員長 梶原 孝生、副運営委員長 田頭 規夫 | |



ATAC15周年記念座談会

「ATACに望む」要約

【梶原】ATACは今秋設立15周年記念行事を盛大に開催する予定です。その企画の一つとして、ATACニュースの記念特集号を編集し、その中にATACに対する皆様のご意見やご感想を特集記事として載せようと考えています。その企画のために本日お忙しいところをお集まりいただいたわけですが、忌憚のないご意見をお願いします。

◆自己紹介とATACとの関係

【吉井】会社は石川県金沢市ですが、地方には良い相談相手がないので、距離的に遠いが大阪のATACにお願いしています。会社は金箔という伝統産業の仕事で90年近く続けています。私は3代目で父が80歳ですが、まだ社長をしています。



金澤執行役員

【金澤】本社は大阪南港です。工場は大阪府和泉市と中国の無錫にあります。製品は切符の自動販売機や銀行のATM端末などで目にするタッチパネルを触って機械を動かす表示器（正式にはプログラブル表示器と言います）やFA機器が主です。点在していた工場を和泉市に集約する時にATACに新しい生産ラインの構築でお世話になって以来のお付き合いです。

【栄西】社名の五鈴は先々代の社長が伊勢神宮を信仰していたので五十鈴川に由来しています。そのままでは恐れ多いので十を抜いたのです。今年、創業101年目で、五鈴の社名になってから60年の会社です。創業時は硝子のボタンや基石を作っていました。これらの製品は25～6年前に止め、光学部門に絞ったのです。今の主製品は液晶プロジェクターのレンズアレーです。

【中尾】私の方はハイテクの格好よい企業ではなく、きな粉や唐辛子など昔から変わらぬ食品を製造していますが、古い中で新しいことをやりたいと、ATACにお願いしているのです。珍味堂は他社にない味の食品を作る会社という意味で、差別化の理念が込められた社名なのです。その柱になる食品は赤・黄・緑で赤は唐辛子、黄はきな粉と金ゴマ、緑は青海苔なのです。

◆ATACに依頼したコンサルティング内容

【栄西】ATACにいろいろやってもらっていますが、開発型企業でありながら、微妙な考え方のズレから外から取り込むのは面倒臭がる体質があります。急激に大きくなったので技術指導が行き届かない場面があり、難しい説明は嫌がるのです。新しい技術に取組む姿勢にギャップが生じます。それを乗り越えるために内部の人が指導すると、仕事が忙しいことが分かっているので、妥協してしまうところがあるのです。外部の人に指導してもらって、やらざるを得ない状況に追い込むために、ATACに新しい技術の導入をお願いしたのです。



梶原運営委員長

【梶原】社長さんが毎日口うるさく言ってもうまいかないので、ATACに頼みに来られるのですが、現場は、これだけやっているのにATACなど来てもらわなくてもいいよというケースが多いのです。まず現場の責任者と信頼関係を築く事が大切です。私がATACのメンバーに言っているのは、理想論ではなく社長さんや担当の方が何を望んでいるかをよく理解せよと言っています。

【吉井】ATACと研究開発で何年かやってきて、研究開発の場合はわれわれが望んでいるのはむしろ理想論です。理想を言って欲しいのです。これからの日本は最先端技術とソフトパワーの結合が必要です。ルイ・ヴィトンなどで、千円で作ったものを1万円で売っているが、われわれには今はできませんが、ソフトパワーを使って世界で最高級と認められるブランドを作ろうとしています。その時にATACの技術力を利用させていただくつもりです。

【中尾】当社の製品は乾物の世界なので、昔は虫が湧いても「しょうがない」で済んだのが、今はちょっとでも虫が出れば、ロット回収です。虫の卵は0.3mmですが、細菌よりも卵の方が強いので難しい問題でしたが、ATACと協力して、ある条件で殺卵できる方法を発見し、特許を取るにもATACの協力で成功しました。ATACを良いアドバイザーとして付き合っているのです。

【金澤】当社は電子機器を作っていて、ATACとは10年ぐらい前からお付き合いをさせていただいています。そのころはコンベアーで物を作るのが常識になっていました。そのころから顧客の要求が多様化し、少量多品種で効率良い生産のできる仕組みが必要になってきました。そこでATACの先生方にお世話になりながら、コンベアーをばらして、セル生産システムを立ち上げていったのです。その後、安定した品質のモノを効率良く生産する自動組立機にチャレンジし、ATACの先生方に指導をしていただきながら完成させました。



吉井専務取締役

【吉井】私の方のATACとの契約は何回来て半年契約というだけでなく、1年間契約して、その中である程度自由に相談させていただくのです。実際の運用として契約以外のATACの専門家の方をお願いしたりして